

# しのぶ草



(発行 偶数月)  
発行：宮崎市教育委員会文化財課  
宮崎市きよたけ歴史館  
発行責任者 川口 眞弘  
所在地：宮崎市清武町加納甲3378-1  
TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634  
E-mail kiyorekisi-u@city.miyazaki.miyazaki.jp

## 息軒先生から 明日を担う子どもたちへのメッセージ



安井息軒旧宅にて 清武小



船引神社にて 大久保小

### 一生の計は少壮にあり

息軒先生の父、安井滄洲先生は弟子たちと飢肥藩清武郷(今の清武、田野、赤江、木花、青島地区)に郷校「明教堂」を造ります。そこに息軒先生が江戸から帰藩。二人を中心に教育が行われ、たくさんの優秀な人材が育ちました。

明教堂は明治4年の清武郷校、明治8年の中野小学校を経て、明治28年清武尋常小学校に改称され現在に至っています。従って清武小学校では今でも行事の際には、まず「三計の教え」を朗読、それから行事…というように、郷土の産んだ日本一の学者、安井息軒先生の素晴らしさを学校教育に活かそうとする伝統が息づいています。もちろん他の学校でも異なる方法で…。

その清武小学校6年児童は5月8日、早速遠足で本館を訪れ、次いで5月22日には大久保小の3・4・6年が清武の歴史について学習しました。秋には加納小も来館します。



滄洲先生は、高岡の月知梅まで足を運び、「梅見漸」というお話を書いたぐらいの梅好き。そして息軒先生も梅が大好きでした。ちなみに旧宅の角には、息軒先生のお手植えと言われている梅の木も。2月に満開だった梅も今は見事な実に…。

5月14日(木)には、まず清武幼稚園の園児たちが、そして21日(木)には、清武地域子育て支援センターの幼児たちが訪れ、親子で梅ちぎりをしました。豊かな体験をしながら、親子でふれあいながら、そして息軒先生に親しみながら、子どもたちは成長しています。

## 災害伝承

本年度の第1回きよたけ歴史講座の講師は、宮崎大学工学部原田隆典教授による特別講話「災害伝承 宮崎の地震災害伝承から学ぶ知恵」でした。

先生は、地震・津波対策を初めとする本県防災対策の中心人物。しかも昨年共著で「災害伝承」という本を出されたばかり。本館の通常の講座とは異なる視点での講座で、有意義なものでした。私たちも自らの防災意識を高めたいものです。

### きよたけ歴史講座

③息軒 儒者の日常 7/11

文化財課 今城主査

④日南市教委長友禎治氏

8/8 10時~11時45分

講座等案内

### 上井覚兼日記を読もう

③6/20 ④7/25 13:30~

15:00 本館 新名一仁

坂本正直氏による安井息軒

絵画展 7/18~8/30

〈清武郷のかくれた史跡 第4回〉

「清武城周辺の石塔①」

清武郷内には、山内石塔群(清武町木原)など、寺院跡を中心に数多くの古石塔[五輪塔(ごりんとう)、板碑(いたび)、石幢(せきどう)など]が残されています。今回は、清武城周辺の石塔をご紹介します。

まずは、市指定史跡清武城跡の中心「清武城跡」の記念碑の横に立つ六地藏塔です。六地藏塔とは、笠の下に六地藏を彫った石幢のことです。この塔は、高さ2mもある大型のもので、戦国初頭の永正11年(1514)の年号が確認できます。建立者は、長倉左京亮・永富左衛門尉で、二人ともこの時期宮崎平野一帯を支配していた伊東氏の家臣とみられます。二人以外にも風化が進んで読めませんが、多くの名前が刻まれており、戦死者を弔ったものではないかと推測されています。



清武城跡の北側、加納小学校に向かって突き出た尾根は、明治初頭に廃寺となった中山寺の跡です。その中に稲津掃部助)重政(いなづかもんのすけしげまさ)の墓(市指定文化財)があります。稲津重政は、近世初頭の伊東家重臣で、慶長5年(1600)関ヶ原の戦い勃発時には、清武城代をつとめていました。徳川方に属していた伊東家は当主祐兵が病のため、稲津重政が豊前中津城の黒田如水(官兵衛孝高)の指示を受け、同年9月30日、県領主高橋元種の支城である宮崎城を攻略しました。しかし、高橋元種は同月15日に徳川方に寝返っており、結果的にこの戦いは同士討ちになってしまいました。徳川家康の命により宮崎城は高橋氏に返還され、慶長7年(1602)10月、家中で孤立した稲津重政は清武城に籠城して討伐を受け、妻らとともに自害しました。この墓は、後年、重政の祟りを恐れ、建立されたものとみられ、自害した重政夫妻と近習の名が刻まれています。

清武城の東側、登能尾山とよばれる丘陵は、寺院の跡とみられ、江戸時代には周辺から人骨が見つかっています(『日向地誌』)。昭和12年(1937)、この地で発見された石塔を整備したものが、市指定史跡「伊東祐堯公墓」です。5基の板碑・宝塔(伊東塔)からなり、中央の板碑が伊東祐堯・祐国父子、その右が伊東祐堯、左が祐国、右端が祐国の子尹祐の供養塔で、左端が尹祐の子祐吉の供養塔と推定されています。左端以外は伊東尹祐が没した大永4年(1524)のもので、尹祐の子が先祖供養のために建立したとみられます。祐堯は、15世紀中期に山東(宮崎平野)を統一した伊東氏中興の祖で、文明17年(1485)4月、飢肥攻略に向かった嫡男祐国を飢肥城で見送ったあと、この地で没しました。そして祐国も父の後を追うかのように、同年6月飢肥城近郊で討死しています。

(文責：新名)

